

2024年6月12日
株式会社東陽テクニカ

「Spirent TestCenter 400G AI/ML ネットワークインフラ・テストソリューション」 6月12日販売開始

既存のテスト環境でロスレスイーサネットの高精度な試験が可能に

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長：高野 ^{こうの としや} 俊也、以下 東陽テクニカ)は、Spirent Communications Inc.(本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下 Spirent 社)製次世代ネットワークパフォーマンステスター「Spirent TestCenter」の新たなテストソリューションとして、「Spirent TestCenter 400G AI/ML ネットワークインフラ・テストソリューション」を2024年6月12日(水)に販売開始いたします。

本ソリューションは、AI(人工知能)/ML(機械学習)向けデータセンターネットワークのテストに適したロスレスイーサネット専用テストソリューションで、AI 環境向けの高密度 400G GPU ワークロードや CCL(Collective Communications Library)を忠実にエミュレーションします。GPU サーバーの導入が不要で、既存のテスト環境で AI/ML ネットワークインフラの高精度な試験が可能です。

東陽テクニカは、本ソリューションを2024年6月12日(水)より3日間、幕張メッセで開催される「Interop Tokyo 2024(<https://www.interop.jp/>)」にて国内で初めて披露いたします。尚、本ソリューションは「Interop Tokyo 2024」で Best of Show Award ファイナリストとしてノミネートされています。



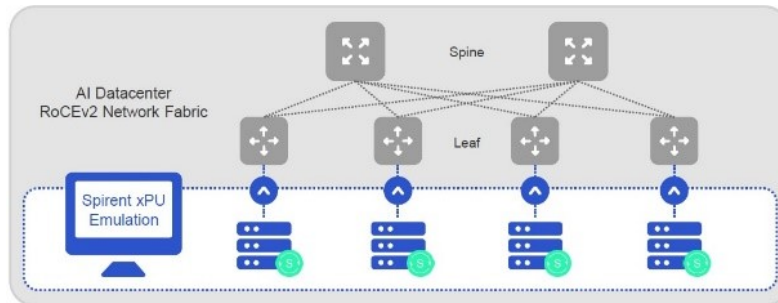
「Spirent TestCenter 400G AI/ML ネットワークインフラ・テストソリューション」ハードウェア

【概要】

近年、AI/ML やエッジコンピューティング、ハイパフォーマンスコンピューティングシステムの市場は爆発的に伸びており、その計算処理を担うデータセンターの敷設コスト、運用コスト、消費電力も急増しています。その計算能力を最大限まで引き出すため、データセンター内外のネットワークにおいては、AI/ML 計算時間の著しい低下要因となるパケット欠落が一切ないイーサネットワーク(ロスレスイーサネット)が求められています。これは、従来のインターネットの概念—ある程度のパケット欠落を許容しそれを再送処理で補う—と異なり、業界の課題となっています。

「Spirent TestCenter 400G AI/ML ネットワークインフラ・テストソリューション」は、AI/ML ネットワークインフラ構築に向けたロスレスイーサネット専用のテストソリューションで、AI 独自のテストニーズと複雑さに対応します。リ

リアルな AI ワークロードをエミュレーションし、AI データセンターネットワークへの影響をテストして、イーサネットファブリックのパフォーマンステストが可能です。Spirent 社の現行最新ラインアップである「TestCenter A1 400G アプライアンス」上で実行され、RoCE(RDMA over Converged Ethernet)v2 をトランスポートとして使用し、AI 環境向けの高密度 400G GPU ワークロードをエミュレーションします。GPU サーバーの導入が不要なため、膨大なコストや消費電力を抑えて既存のテスト環境でイーサネットファブリックのテストが可能です。操作性の高いプラットフォームで、再現性のある試験が簡単に実施でき、AI 独自のテストの複雑さを軽減します。また、AI 独自のテストとルーティング/スイッチングテストを同時に実施することも可能です。



【Spirent TestCenter 400G AI/ML ネットワークインフラ・テストソリューション】検証イメージ図

【 主な特長 】

- ・ 1 台で 400GbE 16 ポートを搭載し、全ての 400GbE ポートで AI/ML テスト可能
- ・ RoCEv2、PFC(Priority-based Flow Control)、ECN(Explicit Congestion Notification)を駆使してロスレスネットワークを実現
- ・ AI 環境向けの高密度 400G GPU ワークロードや CCL を忠実にエミュレーション可能
- ・ CCL JCT(Job Completion Time : ジョブ完了時間) Result や CCL Tail Latency Result などの独自のカウンタを実装
- ・ テストソリューション 1 台で多数の GPU サーバーをエミュレーションできるため、GPU サーバーの導入・利用で生じるコストや電力を削減してイーサネットファブリックのテストが可能
- ・ Spirent 社の現行最新ラインアップである「Spirent TestCenter A1 400G アプライアンス」で動作
 - サイズ : 450 (W) x 85 (H) x 749 (D) mm
 - 重量 : 26.7 kg

【 製品データ 】

- ・ 製品名 : 「Spirent TestCenter 400G AI/ML ネットワークインフラ・テストソリューション」
- ・ 販売開始日 : 2024 年 6 月 12 日(水)

【 Interop Tokyo 2024 出展概要 】

- ・開催展名 : Interop Tokyo 2024
- ・日程 : 2024 年 6 月 12 日(水)~14 日(金) 10 : 00~18 : 00 ※最終日は 17 : 00 まで
- ・会場 : 幕張メッセ (東陽テクニカブース番号 : 5P04)
- ・出展お知らせページ : https://www.toyo.co.jp/ict/seminar/detail/Interop_Tokyo2024.html

<Spirent Communications Inc.について>

Spirent Communications Inc.は、米国カリフォルニア州サンノゼに本社を構える測定器メーカーです。IT・通信業で用いられる最新の技術、インフラストラクチャ、アプリケーションを評価するための先進的な測定器、測定手法を開発・提供しています。そのソリューションは研究開発ラボおよび通信事業者、通信機器メーカー、企業のIT部門など全世界で幅広く使用され、業界のリーディングカンパニーとして長年にわたり通信事業の品質向上に貢献しています。同社のソリューションによって、400G イーサネット、5G、LTE、無線 LAN、衛星通信、NFV、クラウド、IoT、M2M、ネットワークセキュリティなど、IT・通信に関わるあらゆる観点での性能・品質確認が可能になります。東陽テクニカは同社の日本国内の代理店です。

Spirent Communications Inc. Web サイト：<https://www.spirent.com/>

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、1953年の設立以来、最先端の“はかる”技術のリーディングカンパニーとして、技術革新に貢献してまいりました。その事業分野は、情報通信、自動車、エネルギー、EMC(電磁環境両立性)、海洋、ソフトウェア開発、ライフサイエンス、セキュリティなど多岐にわたります。5G通信の普及、クリーンエネルギーや自動運転車の開発などトレンド分野への最新の技術提供に加え、独自の計測技術を生かした自社製品開発にも注力し、国内外で事業を拡大しています。最新ソリューションの提供を通して、安全で環境にやさしい社会づくりと産業界の発展に貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト：<https://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 経営企画部マーケティンググループ

TEL：03-3279-0771(代表) / E-mail：marketing_pr@toyo.co.jp

製品ページ：<https://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/testcenter.html>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。